

保険証一枚ではり・きゆう・マッサージを受けたい

医療を考える会 会報

発行元:NPO 法人 医療を考える会

住所 渋谷区代々木 2-39-7 メゾン代々木 201 号

TEL 03-3375-6151 / FAX 03-3299-5275

メールアドレス iryu-kangaeru@waltz.ocn.ne.jp

HP <http://npo-iryu.org/>



「第 25 回千駄ヶ谷社教館まつり」に参加

2 月 16 日(日)、今年も社教館まつりのマッサージ体験コーナーに参加しました。

当会から参加されたのは瀬川、松本、清水、岩下、田中、武井、山口、木幡、山西力、山西俊夫の 10 名(敬称略)でした。みなさん休日返上して NPO 活動に協力頂き感謝申し上げます。

今年で 4 回目となり漸く浸透してきたので、大雪の影響を心配しましたが、マッサージを体験された方は午前中 17 名、午後 23 名計 40 名と昨年の 2 倍に達しました。署名も 41 筆頂きました。アンケートにも 33 名が熱心に回答下さり事務局でその内容を表にまとめましたのでご参照ください。

年代では 40~80 才と多岐にわたっていますが、60 代 6 名、70 代 13 名、80 代 9 名と高齢者の方々が目立ちました。皆様身体の不調を訴えていまし

山西 俊夫 記

たが、受けた後は表情がにこやかになり保険適用の診療を切実に望んでおられました。

性別では男性 6 名、女性 27 名と圧倒的に女性が多く、ご婦人の方が社交的で祭りへの参加が多いこと、働き過ぎで身体に無理が生じていることが推察されます。中には昨年同様に当会のコーナーを覚えておられて、体験コーナーに直行された方もいらっしゃいました。

場所柄千駄ヶ谷界隈から来られた方が大半で、地元の診療所を紹介できなかったのが残念でしたが、当会を紹介しました。

反省会では、施術師の先生方に仕事着を着用して頂いた方が PR になったのでは、との御意見を頂戴しましたので今後の参考にさせて戴きます。

地域密着ができた一日で充実感がありました。

千駄ヶ谷社教館まつり

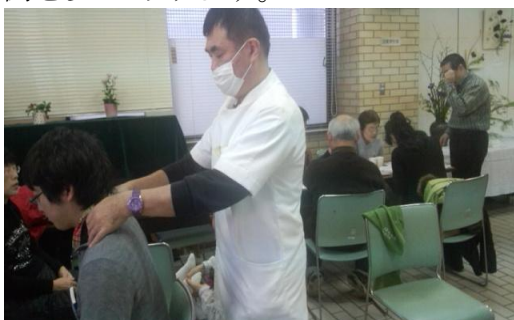
東洋医療への期待が感じられた今年の普及活動



「NPO法人医療を考える会」は例年のごとく、今年も「社教館まつり」に参加しました。昨年より親しみ易かったためか立ち寄る人も多く、マッサージを受けた人は40人を超えるほどでした。見えた人のお話を聞いていると、皆さん健康のために鍼灸マッサージ東洋医療に日頃からかかりたいんだな—という思いが伝わってきました。

現在の国の制度を説明すると、皆さんよく理解を示し「署名」にも快く協力していただきました。

私がマッサージを受け持った人の事例を少々あげます。



●80代女性：ここ10年位、左足全体むくみがひどくて困っている。医師はそんなに心配しなくてよいというが、自分はなんとか治したい。おからだを拝見すると、左足全体、像の足のようにパンパンに張っています。下肢の血管閉塞か、リンパの流れの異変が

疑われるので本人が希望するなら専門の病院で詳しく検査を受けることをお勧めしました。全体の循環停滞も見られますので強すぎないマッサージをしました。本人は縫物が好きでサークルで楽しんでいるとのことでした。

●血圧の高い人が何人かいましたので脳出血予防など、上部の瘀血を下げる、足の反応穴から行いました。家での注意点もお話しました。

●この会館を利用し、習字、絵画・語り、お茶、ヨガなど皆さん好きな趣味を生き生き楽しくやっておられ、良いことだと思いました。又、「より健康でいたい、東洋医療を受けたい、どこへ行ったらやってくれるのか」「国家資格者と無資格者、わかるように表示してもらいたい」等々東洋医療もたよりにしていることが伝わってきました。

◎ 当日のこちら側の参加者、資格者6人、事務局役員は4人でした。本当におつかれさまでした。

百里の道も一歩から。私達は又、機会をつくって普及活動も続けて参りましょう。正道ですからいつかは大きな道になっていくでしょう。

田中 榮子

100万署名を成功させるため

東京を中心とする関東でも100万署名運動を広げていきたいと「相談会」を下記日程にて行います。何かとご多忙のことと思いますが、ご都合のつく方はご出席の程よろしく願いいたします。

「国民の会」副会長 山西 俊夫・高橋 養藏

日時 4月13日(日) 午後13時~16時

会場 家庭クラブ会館第一会議室(渋谷区代々木3-20-6)

第29回大山登山マラソン

鍼灸マッサージボランティア

署名活動に参加

山西 俊夫 記

3月9日(日)、大山マラソン鍼灸マッサージボランティア・署名活動を実施しました。

署名活動は伊勢原市より正式に許可を得て、大会会場である伊勢原小学校の校庭で初めて行いました。

NPOから木幡、山西俊夫、山西力の3名が受付と署名活動に参加、ランナーのケアは、大山阿夫利神社下社で清水一雄、武井、鳥海、神奈川の先生方が担当、伊勢原小学校で高橋、岩下、久下、神奈川の先生方が担当されました。

当日は大山下ろしの風が冷たかったのですが、好天に恵まれてAM11時頃からPM3時まで精力的に実施することができました。特に午後からは、大会本部からマッサージ活動のアナウンス紹介もあって、走り終えたランナーの方々が時間の経過と共に続々並ばれて、ケアする先生



のランナーの方々には残念ながらお断りせざるを得ない状況でした。

標高差 650m、最後の 1,610 段の石段を登り終えた地点の下社でのケア活動の忙しさは想像以上だったでしょう。ケアを受けられたランナーをはじめ 112 筆（伊勢原小 103、下社 9）の署名が集まりました。当日募集定員 2,000 人に対し 2,251 名が参加されたので 5%の方々がケアを受け署名に協力くださったことになります。当日参加されたみなさま本当にごくろうさまでした。以上



方は全く休む暇もない状況が続き本当にお疲れ様でした。

伊勢原小では5台のテーブルに5人でしたので、もう1~2人参加されると交代のゆとりが取れたと思います。会場はPM3時で終了のため、2時半には受付をストップせざるを得ず、一部

健康保険で受けられればね

はり・きゅうもマッサージ、指圧も健康保険で受診できるようにしたいのですが署名にご協力をとすると、「保険で受けられればいいですね」という声は何人もの方からかえてきました。

「保険で受けられないのはおかしいね」という声もありました。

隠れた声を署名に集めていきましょう。

マラソン参加者は2000人ということでした。署名も、治療も、もう少しボランティアの人数がいたらと思いました。

今後のみなさまのご協力をお願いいたします。
(久下)

著書紹介 中村仁一著

(講談社α親書 840円)

死にかた上手のすすめ

著者は、この著作の内容を前書きで次のように述べています。

『「死に方」は「生き方」です。従って、「死にかた上手は」は、上手な死にかたということではありません。死ぬまで上手に充実した人生を送るにはどうしたらいいかを、考えましょうということです。』

そして、上手に充実した人生を送る上での問題点について、以下のように言っています。

「今の年寄は、あまりにも発達したといわれる近代医学に、過大の期待を抱き過ぎています。どんな状態でも、病院へ行きさえすればなんとかなるとの思いを強く感じます。」

「しかし、年よりの不具合は、老化か老化がらみに因るものが大半です。残念ながら、近代医学に、年とったものを若返らせる力はありません。いまさら大病院の専門医のところへ押しかけてみたところで、すっかり治ることなどありません。」

『年寄は「老い」にこだわらず寄り添い、「病」にはとらわれず連れ添う。「健康」に振り回されず、「医療」は、あくまで限定利用をこころがけ、「死に時」が来たら、まだ早いなどとぐずらないで素直に従うというのが、上手な生き方だと思います。』

高齢化社会に広がる生活習慣病の対応では、

中村仁一路歴

なかむら・じんいちー1940年、長野県生まれ。社会福祉法人老人ホーム「同和園」附属診療所所長。医師。京都大学医学部卒業。財団法人高雄病院院長、理事長を経て、2000年2月より現職。1996年より、市民グループ「自分の死を考える集い」を主宰。

著書に50万部を超えるベストセラー『大往生したけりや医療とかかわるな』(幻冬舎新書)、『医者に命を預けるな』(PHP文庫)、共著に『思い通りの死にかた』(幻冬舎新書)、『どうせ死ぬなら「がん」がいい』(宝島社新書)などがある。

現代医療の役割は限定的であり、病院から自立して生きるべきというのが、中村医師の忠告です。

この立場から、現代医療の問題点や医療とのかかわり方、さら

に、定年、還暦からの生き方、そして、最終段階の死にかたについてまで、誰もがぶつかるような問題について見解が明らかにされており大変参考になります。

●癌について見解

癌は手術や抗がん剤による無用な攻撃をしなくては痛みに苦しむという状況は少ない。わたしは、20数年まえから「死ぬのは癌に限る」と言い続けてきた。それは、残務整理の時間があり、親しい関係を結んだ人たちとお別れ、お礼を言う時間があるからだ。

●慢性疾患について見解

高齢化社会の問題は、動脈硬化、高血圧、糖尿病や悪性腫瘍など生活習慣病といわれる病気は、その人の体質、素質が絡んだ内側からの病気で、これを叩き潰す、追い払うなど、完全に縁を切ることはできない。これを投げ出すことはできないので軽くするのが治療だ。

第1章どこかおかしい現代の健康至上主義から目次を拾ってみます。

病気に薬の信仰は根強いが、まず不摂生を正す生活改善を。○病気を治すのは身体に備わった自然治癒力だ。○薬にたいする正しい知識を。○半病人をつくりだしている検査値。○検査値の異常、正常とは。○早期発見早期治療はウソ。○生活習慣病を治す専門医などはいない。

何よりも大切なのは日ごろの養生。養生の中身は自分で考えていくのが大切であることを痛感します。

久下勝通



小石川植物園・薬用植物園散策

昨年雨天で中止になった企画を再び計画しました。場所は昨年の計画と同じ小石川植物園内の薬草園で行います。参加者には事前に資料を送付いたします。また、小雨決行としますが、判断に迷う天候の場合は前日に連絡します。

日時：2014年5月11日（日） 午前10：30～午後3：00

場所：小石川植物園

入園料：大人（高校生以上）400円 小人（中学生以下）130円

参加申し込み〆切 4月30日（水）

事務局：TEL03-3375-6151 FAX03-3299-5275

講師：日本漢方協会 常務理事 緒方勝行氏

※お弁当と飲み物は各自ご持参ください。



アクセス

都営地下鉄三田線：白山駅下車 徒歩約10分

東京メトロ丸の内線：茗荷谷駅下車 徒歩約15分

都営バス（上60）大塚駅～上野公園線 白山2丁目下車 徒歩約3分

